

Title	言語文化学 Vol.6 編集後記
Author(s)	
Citation	大阪大学言語文化学. 6 p.202-p.202
Issue Date	1997-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78105
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

『言語文化学』第6号をお届けいたします。言語文化部と言語文化研究科の主催で昨年7月5～6日「言語文化学の可能性－現在と未来」と題して行われた国際シンポジウムを経た今、自然科学・社会科学・人文科学といった既存の研究領域の境界を越えた真に学際的な研究をめざす言語文化学の試みも、模索の時期から新たな飛躍の段階へと確実に移行しつつあります。言語文化学自体、言語／文化の多様性と普遍性を同時に志向するものであるゆえに、従来の「学」が有する静的な安定感を持ちえてはいませんが、逆にその固定した枠を打ち破るダイナミズムによって、豊饒な成果が本誌を中核として生み出されてゆくことを、今後とも期待したいと思います。

なお、本号刊行にあたり、言語文化部および言語文化研究科の助手の方々には、過大な時間と労力を注いでいただきました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。次第です。

1997年3月

編集委員会

編集委員

北村卓（委員長）、小門典夫、Alexandre Dybovsky、Paul Harvey、福田覚、

上村和美、大谷朗、城野充、中村洋、松井理直、

有宗昌子、今泉志奈子、西澤裕一、福井智子、松原陽子